

レーのおけいこと忙しいようです。このようにおけいこをやっていることが母親の自慢の種ですが、幼稚園でのS子は、自分は動かず他人のことをとやかくつげ口をし「あんたは入れてやんないよ」などと女王のようにふるまっています。そうかと思うとH子はみんなの仲間に入ろうとせず、うづくまるようにして、みんなの遊びを眺めているだけで、誘っても入ろうとしません。

私たちは今四〇名の三歳児をうけていますが、この四〇名はそれぞれちがいをもっています。生活の条件がちがうなかで、てんでにちがって育っています。この子どもたちが、それぞれ持っている力を伸ばしてやりながら、同時に仲よく遊んだり話し合ったりできるように育てたいと念じておりますが、子どもたちはすでにこれまでの生活のなかで、それをさまざまげするような殻を身につけています。

どうしたらこの殻をぬがせることができるだろうか、ほんとうに悩みの種です。

私はもっと子どもの中に入りこんで、子どもと一しょにその考えをひらき、また高めていきたいし、またそのために家庭との話し口を多くし、おたがいに協力していこうとは思いますが、思いいつも実行は進みません。

そこで私たちが一歩前進するためにもっとと保育の技術を勉強したり、また世間のことや学びとったりして、私たち自身の実力をつけていきたい、そのための時間もほしいし、指導者もほしいとつくづく思うのです。

(幼稚園教諭・東京)

保護者に、どのくらい

協力しなければならぬだろうか

杉本知子

私どもの仕事は、私どもだけで、一生懸命になっても、その子どもも家庭の協力がなければ、よい結果はなく、場合によっては、悪い結果を招くこともあることを覚えていきます。

そして、私どもの要求に応じて家庭に協力していただくことはたびたび考え、その方向に近づけるのは、わりあい容易にできるのではないかしら、ということも覚えていきます。

しかし、その反対に、家庭生活のよき援助者と同じくらい考えなければならぬのではないかと。家庭の要求を、どの位聞き、それを満し、さらに、保育者のもつ理想と合せていったらよいのか、と考えております。一例をあげてみますと、

必要以上にきびしい保育をされた子どもが、急に子どもの心理を考え自発性ある子どもにしようとか心がけて保育されました。その家庭の反響は、次の通りです。以前はいいつけをよく守った、素直だった、最近では、まったくいうことを聞かないし、口がたっしやになるばかりで、とのこと。母親にしてみれば、自分も一日仕事で疲れて帰ってくるのに、いうことは聞かない、口返答はする、手はかかる、気分はいらいらする、といったことで、現在の保育の方が、たいへん迷惑と感じるらしい。とにかく、子どもが母親のいうなりに

なれば、いらいらしいですむ、すめば子どもにあたらず、平温無事にその場は終る。

いわゆる便利な子どもである方が好ましいと。とくにいうことを聞かない子どもになってもよいなどは、さらに考えてはいないが、母親に、おとなに便利な、自発性のない、個性のない子どもでなく、やはりどんな場合でも、自分の意見を持ち、発言できる子どもであってほしいと望むのです。それでは必死の思いで働いて、そんなことを考える余裕などもない母親との間に、たつてどんな考えをもつたらよいのかと。また五歳児となりますと、地域によって違いますが、学校にあがるための準備教育機関と考えてなんでも教えてくれるよう、要求し、また保育園にすれば、自分が教えられない点を教えてもらつて、学校にあがるにもいいから、という考えで、保育園をみ、保母をみている傾向があります。

学校側と相談して、その旨を母親に話しますが、誰しも、自分の子どもが少しでもよくできて、ほしい、と望むのは同じでしょうし、働く母親は、昼間見られないからと、なお一そう心配することも考えあわせて、自分たちのみられない点を、生活に必要な、基本的習慣、身体の清潔、愛情の欠乏におかないで、勉強のことにのみにおいている母親たちとどんな方法で協力していけばよいのか。

二つの同じような例をあげましたが、他にもいろいろな面で、母親の要求点と子どもの理想との間にマッチしない点が起つた場合、子どものことはよく考えられても、子どもにつながる母親にはこちらの理想に基づいた要求ばかりで働く母親側の要求を聞くことを忘れがちではないかしらと思えます。こういう点については、どんな考えかたをもつて、母親と力を合せて、子どもを保育すればいいの

だろうか、私も一人一人の保母が。(保育園保母・東京)

私の園における問題点

齋藤 勝子

就職してから早くも半年、学校時代に教わつた理論もそつちのけで、職場のごとき保育。その中で困っていること。解決しなければならぬこと、職場にでて学校時代に教わつた理論と、実際の場におけるギャップなど、問題点をあげてみたいと思います。

第一は、子どもの人数が多いということです。私の園では三歳児はいず、四―五歳児だけ。四歳児が少なく五歳児が多いので、四歳児ひと組、五歳児ふた組、保母は新卒のものばかり四人、保母の人数で子ども的人数を割れば、最低標準でちょうどよいのですがそうはいかず、四歳児に二人取られ、今年卒業したばかりというのに、五歳児を三十八人うけています。人数を聞いただけで、できるかしらという自信のなきの不安が強かったのですが、やればできないことはないという自己のいかばかりで、どうにかここまでできました。

こは、公立の保育園と比較して、だいぶ特殊な条件におかれています。場所は会社の中であり、建物は新設で、公立などは狭くて困っているのですから、広いということは幸せなことかもしれないが、なにしろ三十六坪の部屋を、真中にし切りがしてあるだけなので、隣の先生の声がつつぬけというありさまで。明るさ